



CPDM

Center for Photodynamic Medicine
Kochi Medical School, Kochi University

NEWS LETTER 光線医療センター

2024年 第10号

光線医療センターの委員に耳鼻咽喉科頭頸部外科の手島 直則教授が御就任

2024年9月に新たに光線医療センターの委員に、高知大学耳鼻咽喉科頭頸部外科の手島直則教授が御就任されました。

令和6年9月1日付で耳鼻咽喉科頭頸部外科に着任させていただきました手島直則と申します。この度は光線医療センターの委員に加えていただき、井上啓史センター長をはじめセンターのスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

私は高知大学医学部を卒業後、頭頸部外科医を志し、頭頸部癌症例の豊富な神戸大学耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室に入局いたしました。一般耳鼻咽喉科を研修した後に、根治と機能温存の両立を目指した頭頸部癌診療や手術手技を習得するために、兵庫県立がんセンター、神戸大学医学部附属病院、国立がん研究センター中央病院で勤務をさせていただきました。頭頸部癌診療と並行して甲状腺疾患の専門施設である神甲会隈病院に勤務する機会をいただき世界的に御高名な宮内昭現名誉院長に甲状腺癌の診療と手術手技についてご指導いただきました。2019年に神戸大学に戻ってからは甲状腺癌に対する全摘手術時に術中ICGを注入、PDEで副甲状腺への血流温存を確認し術後恒久的な副甲状腺機能低下症を予防する臨床研究を積極的に行っていました。この副甲状腺血流保存に関する研究は今後も光線医療センターの先生方にご支援を賜り発展させていきたいと考えております。



また頭頸部癌診療におきまして現在、NBIを用いた早期頭頸部癌病変の発見や切除不能頭頸部癌に対する光免疫療法が普及しております。神戸大学耳鼻咽喉・頭頸部外科は西日本の先駆けとしてアキラルックス®を用いた光免疫療法を積極的に施行してまいりました。高知大学耳鼻咽喉科頭頸部外科でもすでに光免疫療法は導入されておりますので、対象症例に対しましては光免疫療法を積極的に導入し症例を蓄積し報告していきたいと考えております。研究面におきましては、甲状腺腫瘍の分子生物学的スクリーニングシステム開発、唾液腺癌に関するバイオマーカー創出という研究課題に取り組んでまいりました。現在は、早稲田大学理工学部と共同でテラヘルツ波を用いた甲状腺腫瘍の革新的診断技術の確立に関する研究を行っております。大変微力ではございますが、これまでの診療、研究を通して光線医療センターの活動に少しでも貢献できるよう精進いたします。皆様、今後共、ご指導の程、宜しく願い申し上げます。

光線医療 関連発表・講演

第60回日本胆道学会学術集会

パネルディスカッション 4 「胆道癌に対する低侵襲手術の現状と展望」

“T2 胆嚢癌に対する ICG 蛍光ナビゲーションと低侵襲手術”

筆頭演者; 瀬尾 智先生

2024年10月11日

Web泌尿器オンラインセミナー

“光で診て、光で治す ～ Photo-Theranostics Era ～”

筆頭演者; 井上 啓史先生

2024年10月7日

光線医療センター ニュースレター

2024年 10月 25日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

文責：福原 秀雄

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/CPDM/index.html>